

令和2年度第8回政策会議概要

- 1 開催日時：令和2年11月16日（月）9：00～9：35
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり
（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題1 令和3年度人事異動方針について

●高濱課長【人事課】（資料1に基づき説明）

令和3年度は「みえ県民カビジョン・第三次行動計画」がスタートして2年目となるが、新型コロナウイルス感染症の拡大が長期化する中、その克服に最優先で取り組むとともに、三重県職員人づくり基本方針（令和2年3月改定）が掲げる「コンプライアンス」、「チャレンジ」、「コミュニケーション」の3つの“C”を職員の基本姿勢として重視し、「時代の変化に的確に対応できる多様な人材」の育成・活用を通じて、「挑戦する風土・学習する組織」の実現を図るため、「意欲・能力・適性に応じた人事配置」、「時代の変化に的確に対応できる人材の育成」、「ワーク・ライフ・マネジメントの推進に向けた人事配置」を3つの柱として進めていく。

☆大橋子ども・福祉部長

職種間交流や人事交流について、新たな取組を考えているのか。

●高濱課長

これまでと同様、国や他団体、市町等との人事交流を可能な範囲で行っていきたいと考えている。

○加太医療保健部長

スマート改革やDX推進のための職員育成とは、具体的にどのような取組を考えているのか。

●高濱課長

本年度から若手職員を対象に取り組んでいる「スマート人材」育成事業を来年度も引き続き実施予定である他、新たに階層別研修のメニューの一つとして取り入れることなどを考えている。

議題2 次期「みえ障がい者共生社会づくりプラン」（中間案）について

●森岡課長【障がい福祉課】（資料2に基づき説明）

現行プランが令和2年度末をもって終期を迎えることから、令和3年度から令和5年度までの3か年を計画期間とする新たなプランを策定するにあたり中間案を取りまとめた。

計画策定にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策、DX等を導入した取組の実施、三重とこわか大会や三重県障がい者芸術文化活動支援センター設置を契機とした社会参加の拡大、SDGsの視点を取り入れることを基本とする。

現計画の基本理念、施策体系等は継承し、指標については2項目を見直し、新しい目標項目を置くとともに、ICTの推進状況をはかる指標として「遠隔手話通訳サービスの利用件数」を掲げることとしている。

(質疑等なし)

議題3 「第2次三重県手話施策推進計画」(中間案) について

●森岡課長【障がい福祉課】(資料3に基づき説明)

「三重県手話施策推進計画」について、次期計画を策定するにあたり、中間案を取りまとめた。

次期計画は県障害者計画(「みえ障がい者共生社会づくりプラン」)の一部として策定するもので、手話言語条例に基づいた1から6の施策において具体的な取組を記載する。

次期計画の主な取組は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策やICTを活用した新たな意思疎通支援などを踏まえて、(1)ICTを活用した意思疎通支援についての周知・検討、(2)災害時における聴覚障がい者の支援に関する協定の締結促進及び協定締結市町との連携、(3)手話通訳者の人材育成推進・手話通訳者全国統一試験対策学習会の実施、(4)イベント等を活用した手話の普及啓発である。

●大橋子ども・福祉部長

「みえ障がい者共生社会づくりプラン」「三重県手話施策推進計画」とともに、教育委員会や雇用経済部など幅広い部局に関係していることから、PDCAの全ての場面において、ご協力、ご意見をいただきたいのでよろしくお願いいたします。

☆鈴木知事

県においてDX推進の議論をする中で、アクセシビリティに考慮していく必要がある。来年は三重とこわか大会があり、障がい者のアクセシビリティを向上させるチャンスである。各部局において、意識をもって対応してもらいたい。

議題4 「県民の声を受けて」公表分の概要について

●福永戦略企画部長(資料4に基づき説明)

今回は10月16日及び11月2日に県Webで公表した県民の声の概要で、受付日では9月から10月初頭にかけていただいた意見の対応についてまとめている。県の対応件数は22

件、1ヶ月で22件というのはほぼ平年並みの数字で、9月以降いただくご意見の件数は平年ベースに戻っている。コロナに関するご意見も減ってきており、今回コロナ関連のご意見は22件中4件という状況である。

(質疑等なし)

以上